

2024年3月期 通期決算説明資料



株式会社フルッタフルッタ（証券コード：2586）

2024年5月15日

01. 2024年3月期 決算概要

02. 2024年3月期 各事業部門・商品の状況

03. 2025年3月期 通期業績予想

04. 今後の見通しと中長期的な成長に向けた取り組み

05. Appendix

01

2024年3月期 決算概要



アサイーの再注目やCO₂削減量を可視化した「CO₂削減マーク」が奏功し、売上高が大きく伸長
営業利益、経常利益も前期比 赤字幅縮小

売上高	売上総利益	営業利益	経常利益
1,136 百万円	356 百万円	△263 百万円	△306 百万円
〔前期比 141.2%〕	〔前期比 114.1%〕	〔前期比 +48 百万円〕	〔前期比 +0.3 百万円〕

－ ポイント

- 1 アサイーピューレ、お家でアサイーボウルやフルッタアサイーシリーズが好調に推移し、売上高、売上総利益に大きく貢献
- 2 アグロフォレストリー原料使用によるCO₂削減量の可視化を実現させたCO₂削減マークの記載が進む中、サステナブルフードとして大手流通企業への採用実績
- 3 物流コストの上昇が続く中で、国内備蓄原材料を有効活用し在庫回転率の上昇に伴い倉庫料を圧縮

**3月下旬の船の到着後、素早くお客様に商品をお届けできたことが大きく貢献
国内備蓄原材料を有効活用して店頭での品薄を最小限に抑えたことも奏功し、通期予想を全項目で上回り着地**

	2023年3月期 実績 (百万円)	2024年3月期 実績	前期比 (増減額)	2024年3月期 通期予想 ※	達成率
売上高	804	1,136	141.2% (+331)	1,100	103.3%
営業利益	△312	△ 263	— (+48)	△ 284	107.3%
経常利益	△307	△ 306	— (+0.3)	△ 320	104.0%
当期純利益	△308	△ 306	— (+1)	△ 320	104.0%

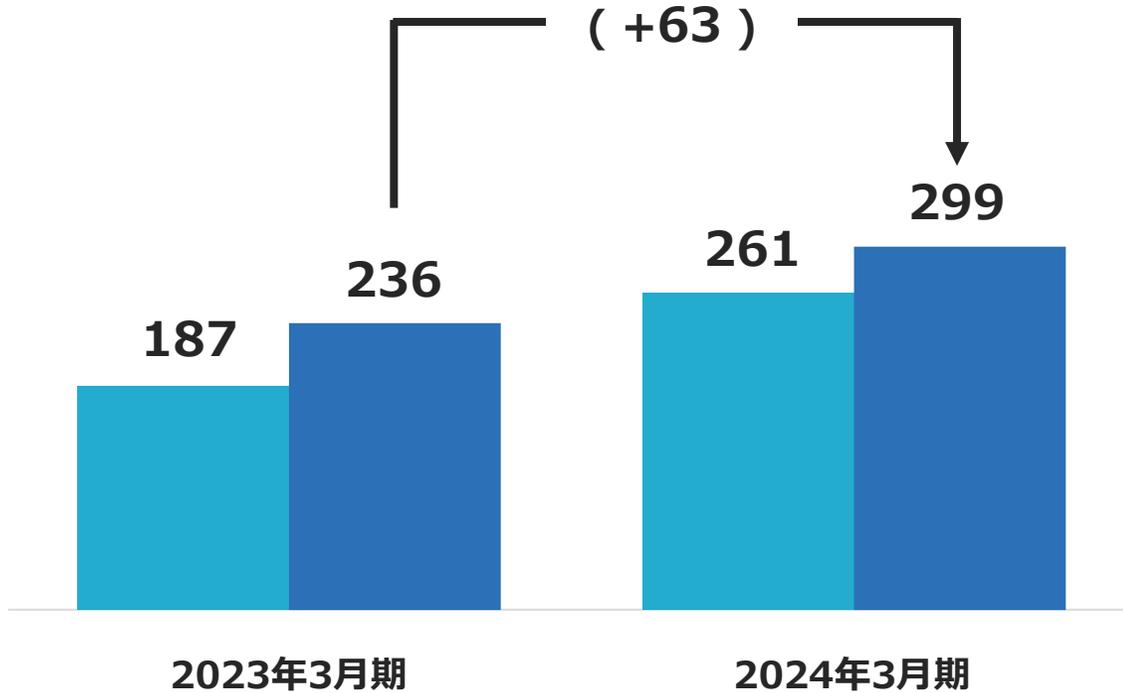
※ 2024年3月19日公表値

第3四半期に続き、第4四半期も前年比増収となり、下半期6カ月でも前年同期比133%を達成

▶ 四半期売上高推移

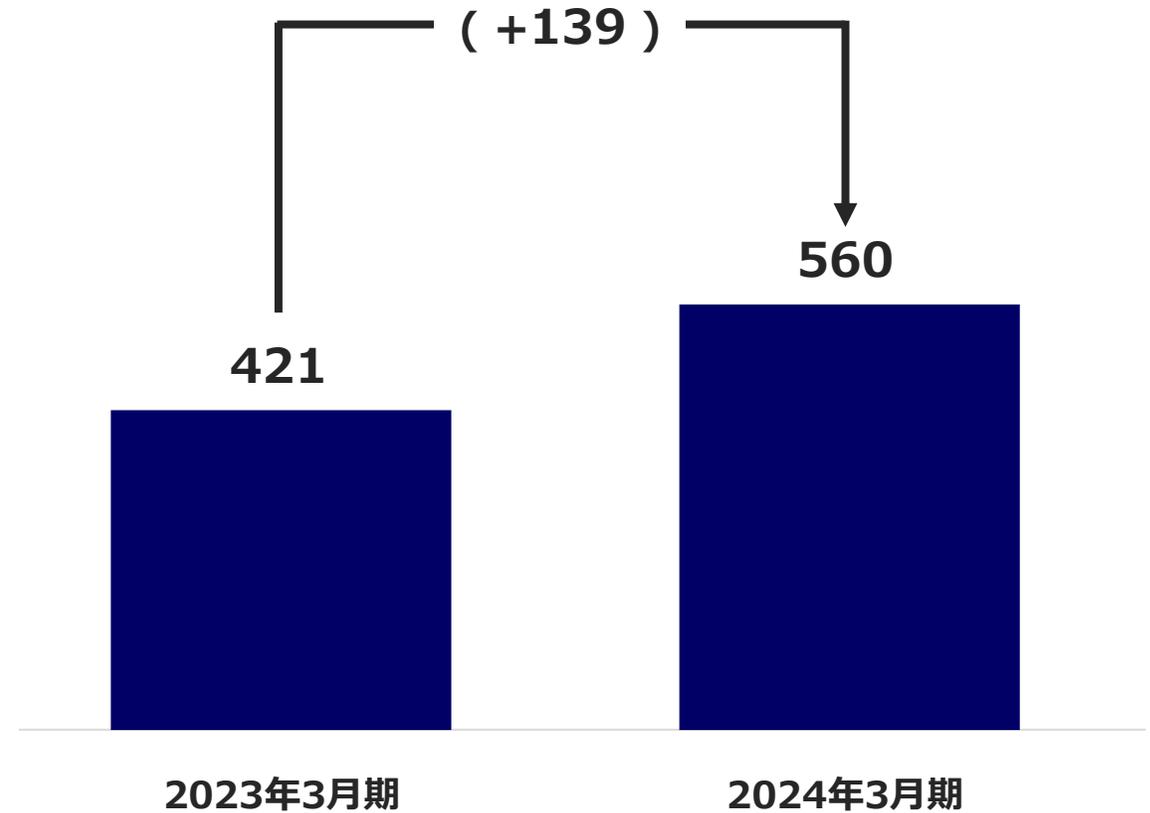
(百万円)

■ 第3四半期 ■ 第4四半期



▶ 下半期（6か月）売上高推移

(百万円)



国内アサイー市場の盛り上がりによる売上債権の増加、在庫確保のための仕入による棚卸資産の増加及び、投資有価証券評価額の増加によって、総資産が443百万円の増加
自己資本比率も59.1%で堅調

(百万円)	2023年3月末	2024年3月末	増減	主な理由
流動資産	764	1,015	+251	売上債権と棚卸資産の増加
現金及び預金	250	337	+127	新株予約権行使
固定資産	437	629	+191	投資有価証券評価額の増加
総資産	1,201	1,644	+443	
流動負債	298	665	+366	仕入債務の増加
固定負債	3	3	0	
純資産	899	975	+76	その他有価証券評価差額金の増加
自己資本比率	74.7%	59.1%	△15.6pt	

02

2024年3月期 各事業部門・商品の状況



リテール、業務用は前期比140%超と大幅伸長
DM、海外も前期比100%超となり、すべての事業部門で前期比を上回る着地

(百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比 (増減額)
売上高	804	1,136	141.2% (+331)
リテール	371	548	147.7% (+177)
業務用	293	417	142.3% (+124)
DM	122	151	124.1% (+29)
海外	17	18	106.4% (+1)

- 上半期は楊枝甘露や台湾フルーツティーなどの新商品が好調
- 下半期は冷凍アサイーピューレやお家でアサイーボウル、フルッタアサイーシリーズが好調に推移

- アサイーピューレ、アサイーグロッソアイスが好調に推移
- CO2削減量マークを使用したU.S.M.H社のPB商品が発売
- タリーズ社の「ヨーグルト&アサイー」がSNSで話題となる

アサイーへの関心の高まりによって国内需要が大幅に増加
 既存アサイー商品が伸長し、いずれの商品も売上高が前年を大きく上回る着地

フルッタ
アサイーシリーズ



200 百万円

〔 前期比 **126.6 %** 〕

お家でシリーズ



46 百万円

〔 前期比 **350.0 %** 〕

アサイーグロッソアイス



66 百万円

〔 前期比 **574.3 %** 〕

アサイーピュール

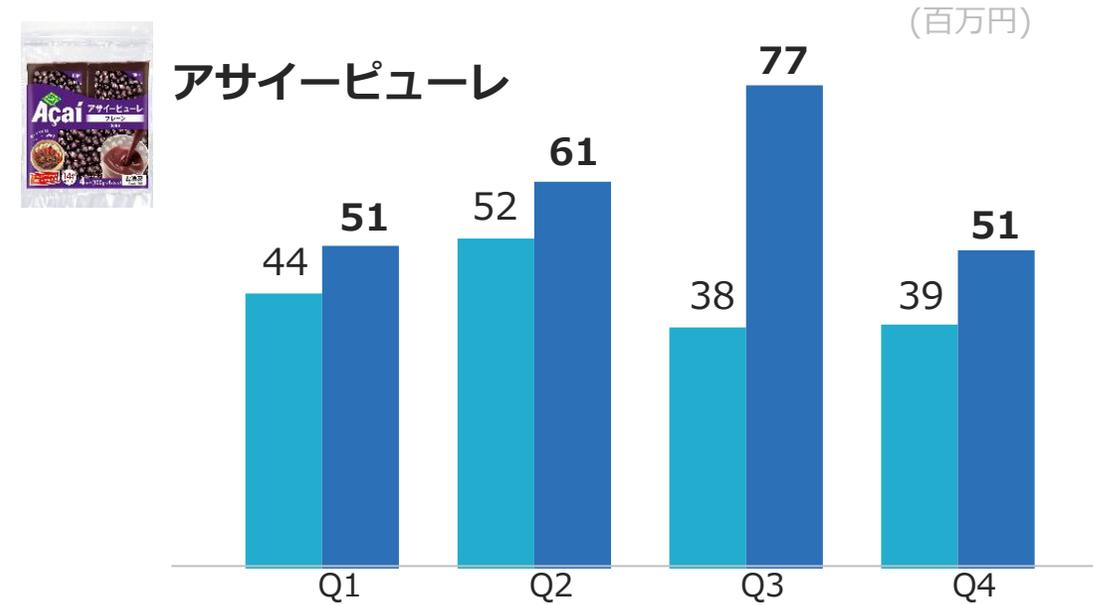
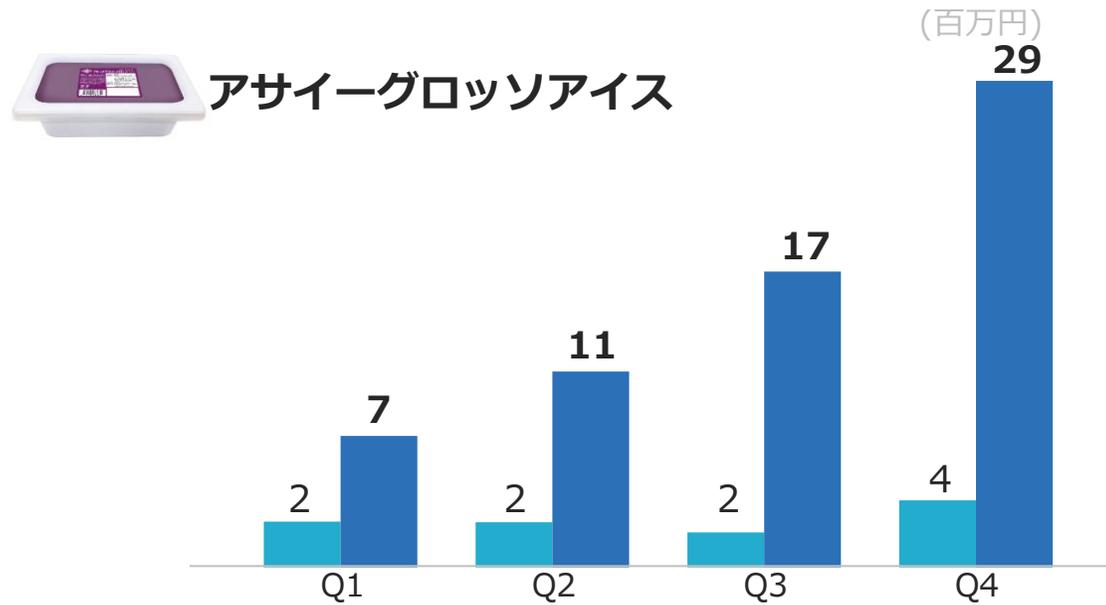
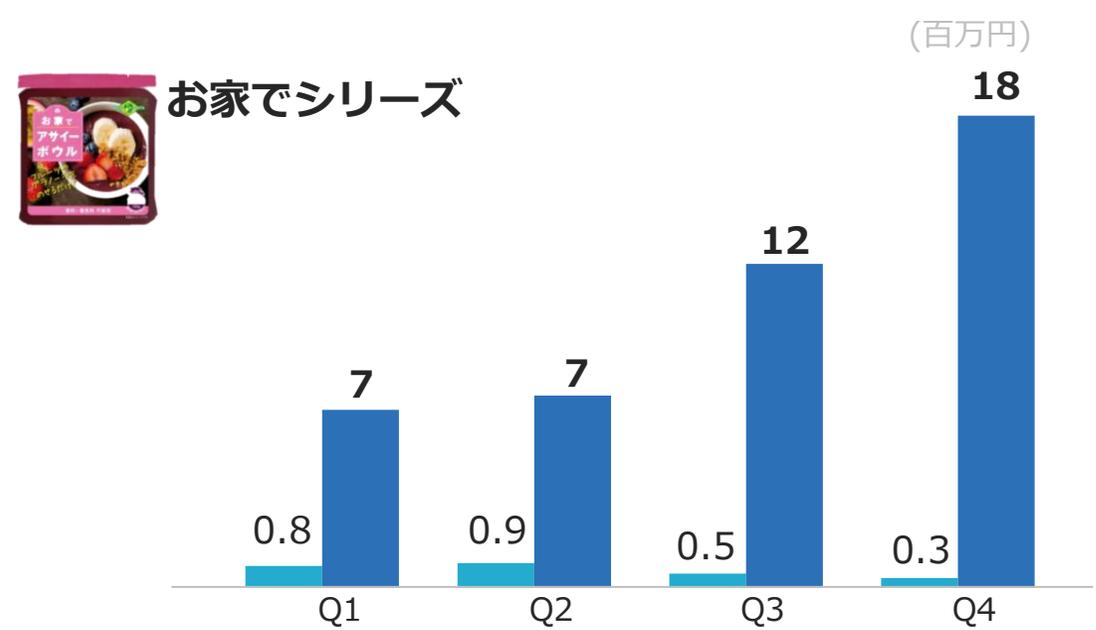
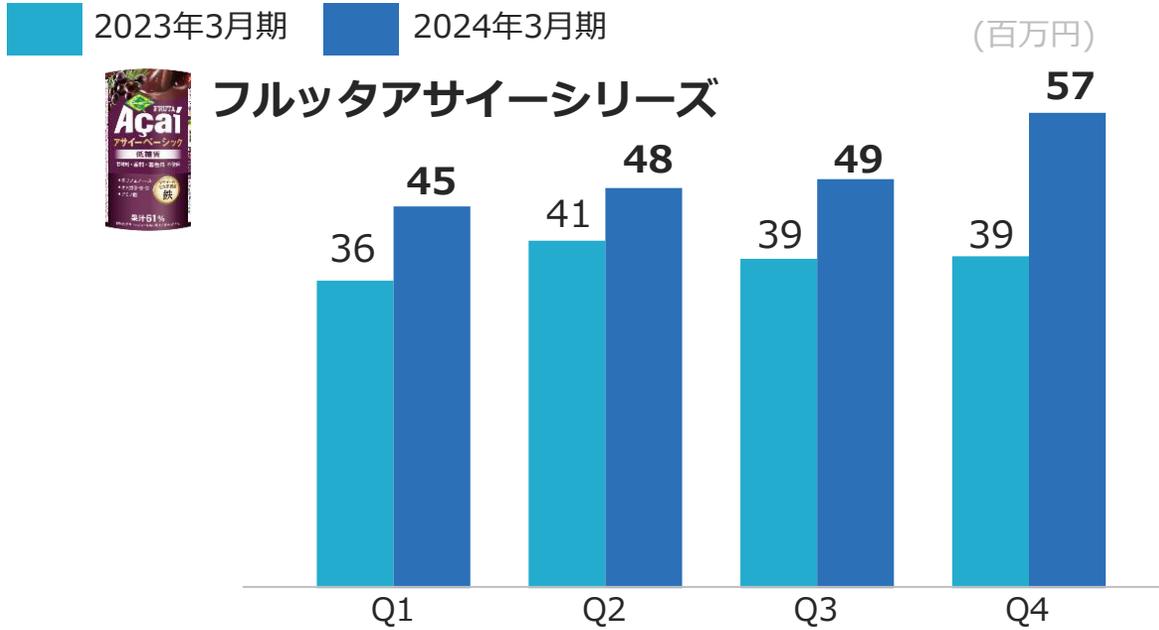


242 百万円

〔 前期比 **138.6 %** 〕

－ ポイント

- ① 「アサイー」 自体への関心も高まりつつも、さらに「アサイーボウル」としての認知が拡大
- ② これまでの「健康的関心」だけではなく、「外食及び中食で食べること」が目的として関心が高まる
- ③ 国内備蓄原材料を有効活用し、輸入の遅れにも体制を整え対応



03

2025年3月期 通期業績予想



国内アサイー事業にリソースを集中させることで売上高について増収
黒字化に向けて全段階利益について赤字幅縮小を目指す

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比 (増減額)
売上高	1,136	1,430	+25.7% (+293)
営業利益	△263	△100	— (+163)
経常利益	△306	△100	— (+206)
当期純利益	△306	△100	— (+206)

- 既存品の露出拡大
- 利便性の高い新商品を投入
- 「CO2削減マーク」を武器に付加価値型原料の拡大
- ECサイトのリニューアルと仕掛け作り

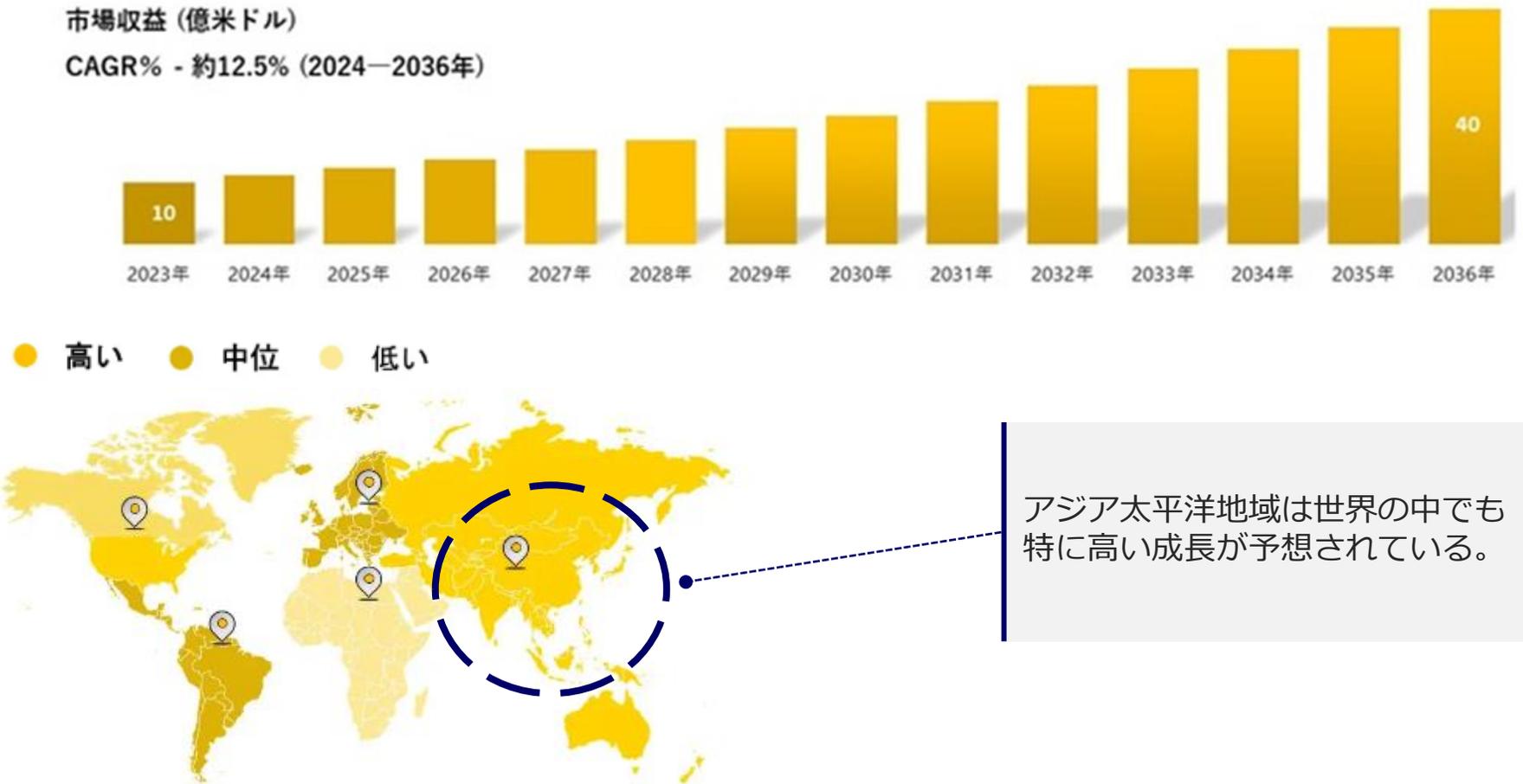
- 在庫の有効活用及び原料調達のコントロール
- 原材料の見直しや配送効率の改善による費用負担の削減

04

今後の見通しと 中長期的な成長に向けた取り組み



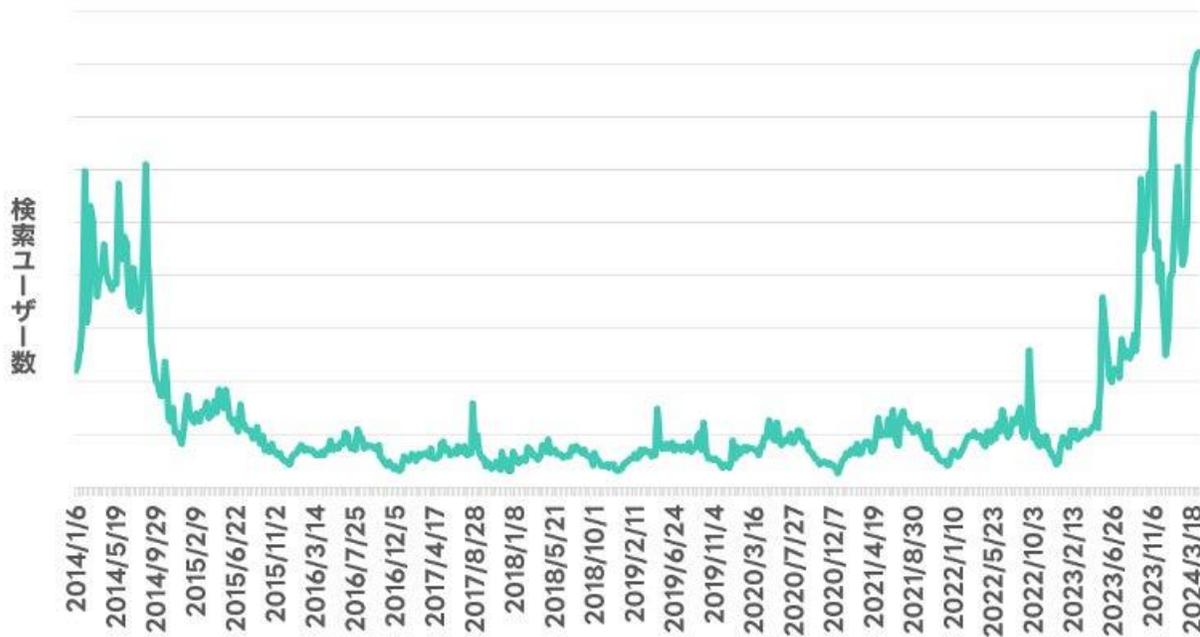
アサイーの世界市場規模は2023年時点で約10億米ドル、2036年までに約40億米ドルに達する予測
中でも、アジア太平洋地域においては、2036年末までに最大10億米ドルに達すると大幅な成長を予想



※ SDKI.Inc .世界のアサイーベリー市場に関する調査レポート： 予測2024—2036年 . <https://www.sdki.jp/reports/acai-berry-market/104521> . (2024-5-1)

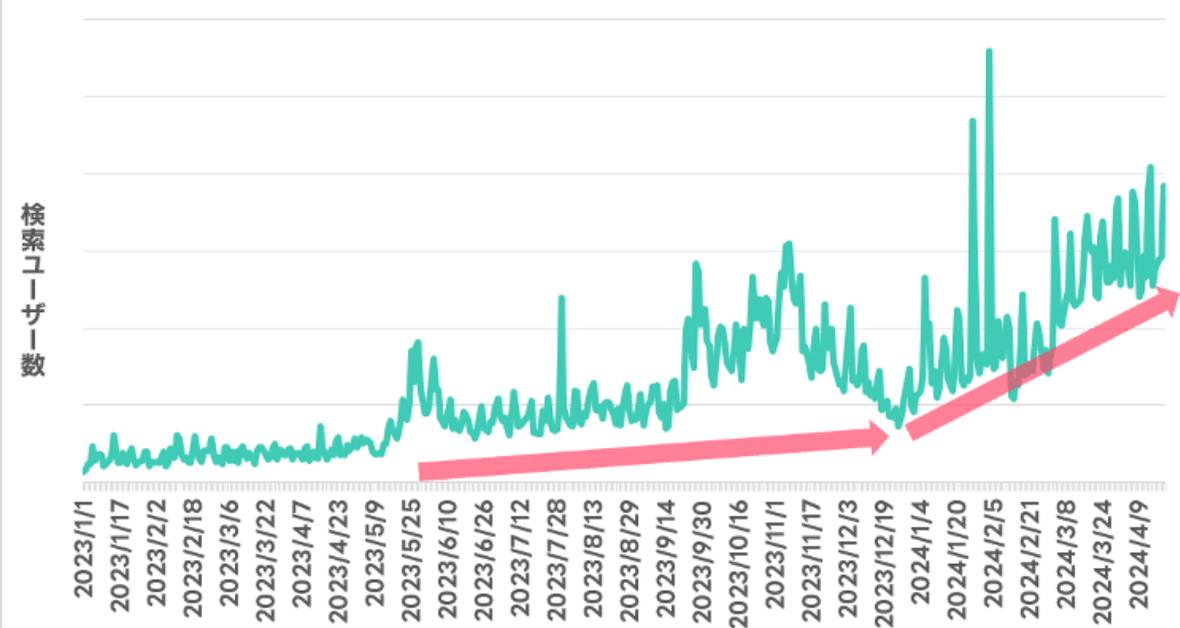
「トレンドマップ」のブレイクエリアに現れた「アサイーボウル」の検索数が直近1年間で3.87倍に上昇
2024年3月には2014年のピーク時を上回る水準に達する

「アサイーボウル」の検索数推移（2014年から週次）※2



集計対象期間：2014年1月6日週～2024年4月8日週（週次）

「アサイーボウル」の検索数推移（2023年から日次）※2



集計対象期間：2023年1月1日～2024年4月13日

▶ 国内需要の盛り上がりに対して、日本におけるアサイーを用いた事業の先駆者として応えるべく、最大限の供給を行う

※1 2023年4月24日～2024年4月23日と2022年4月24日～2023年4月23日での比較

※2 ヤフーデータソリューション、「アサイーボウルが10年ぶりの大流行中？ データトレンド分析がとらえたその中身」. https://yahoo.jp/Lix_fE. (2024-5-1)

アサイーの海外事業展開

まずは日本におけるテスト店舗の出店に向け、
ロケーションの選定や商品・オペレーションの
確認などを進行中

サステナブルマッチングプラットフォーム

プラットフォーム開発に関する
委託先を絞り込み、要件定義を進行中

▶ 政府発表の、「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ（GPI）」^{※2,3}
の流れに沿う形で取り組みを進めていく

※1 各項目詳細につきましては、2023年12月8日開示の「事業計画及び成長可能性に関する事項」をご参照下さい。

※2 外務省・環境・気候・持続可能な開発及び強じんな経済に関するブラジルと日本のパートナーシップに係る共同声明（日ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ（GPI））. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664790.pdf> . (2024-5-3)

※3 外務省、「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ（GPI）」概要. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664788.pdf> . (2024-5-3)

05

Appendix



「アグロフォレストリー」は「農業」のアグリカルチャーと「林業」のフォレストリーの合成語
複数の農産物や樹木を混植することにより、単一栽培に比べて生態系が多様な農場が構成される



荒廃地

アマゾンの土壌は薄く、伐採してしまうと養分が流れて作物が育ちにくくなる。



1年目

将来にわたり収穫を得られるよう計画的に野菜やコショウ、果樹、材木の苗を植える。



5-10年目～

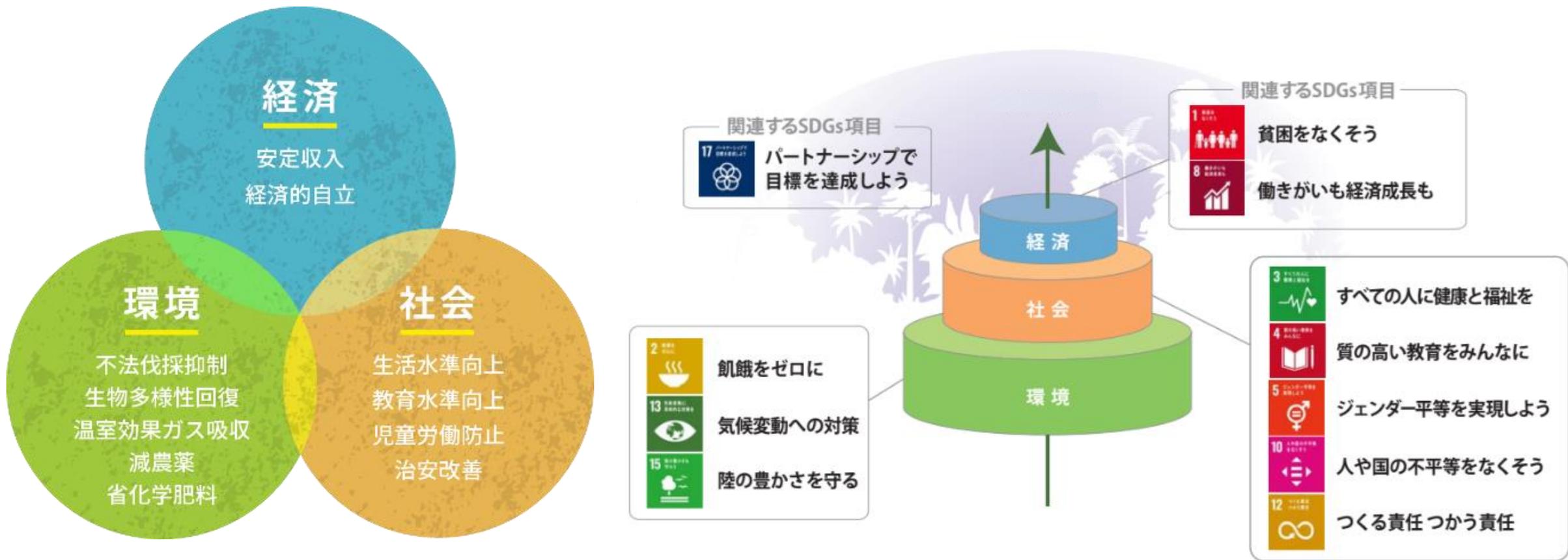
コショウが枯れ、果樹が実をつける。この時期が最も作物の種類が多く、最も二酸化炭素の吸収量が多い時期



20年目～

木と低木が共存する森のようなアグロフォレストリーが完成
光のコントロールをしながら低木果樹の生産性を維持。

アグロフォレストリーのメリットは大きく「経済」「環境」「社会」の3つ各側面からサステナブルな農業として期待されている



▶ **経済活動と環境を両立できる持続可能な農業**

本資料におけるご説明に含まれる将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされ、もしくは算定されています。また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や国内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社により何らかの行動を勧誘するものではありません。

<本資料に関するお問い合わせ先>

E-Mail : ir@frutafruta.com

<http://www.frutafruta.com>

